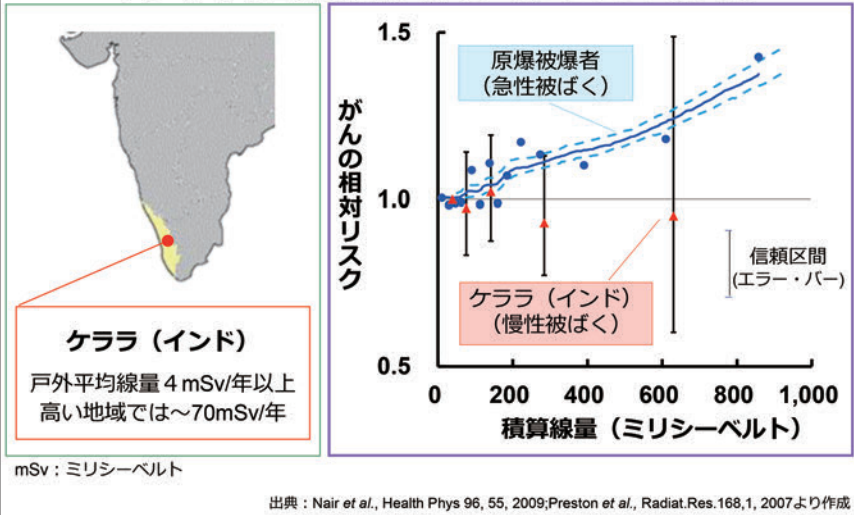


インド高自然放射線地域住民の発がん



低線量率被ばくと高線量率被ばくでは、影響の出方は違うと考えられています。

右図は原爆被爆者のデータと、ケララ (インド) のような高自然放射線地域住民のリスクを比較したのですが、ケララでは積算線量が数百ミリシーベルトになってもがんの相対リスク (被ばくしていない人を1としたとき、被ばくした人のがんリスクが何倍になるかを表した値) の増加が見られません。信頼区間 (グラフ上のエラー・バー) の幅も非常に大きいことから、更なる検討が必要ですが、慢性被ばくの場合、急性被ばくよりもリスクが小さくなることが示唆されます (上巻 P116 「低線量率被ばくの発がんへの影響」)。

(関連ページ : 上巻 P99 「相対リスクと寄与リスク」)

本資料への収録日 : 2013年3月31日

改訂日 : 2018年2月28日